

分野	補完的な道路の整備		事業番号	41	事業名	雪寒対策道路	
市町村名	栄村	ふりがな 箇所名	あきやまごもりみやのはら (一)秋山郷森宮野原(停)線 白土 しろど		工期 (年度)	当初	H19 ~ H21
当回事業費	150,000 千円		費用対 効果	当初		-	実績
最終事業費	73,632 千円		評価時	-	完了後経過年数	3年	
事業化の目的	平成18年豪雪時に既設雪崩予防柵を乗り越える雪崩が発生し、県道が通行止めとなる災害が発生したことを受け、雪崩による災害防止を目的として本事業を実施した。						
事業等経過	当初計画内容	雪崩予防柵 18基 L=60m					
	最終事業内容	雪崩予防柵 8基 L=60m					
	変更理由	計画内容の変更及び入札差金による変更					
評価内容							ランク
事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない) 県道への雪崩流出を防止しているため、目的を達成している。							B
事業実施に伴う自然環境の変化(A:環境がよくなった B:影響なし C:影響あり D:影響が大きい) 構造物の設置に伴い、自然環境への影響はあったが、事業実施に伴う環境の大きな変化はなかったとする回答が約7割であった。							C
施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切にされている C:やや不十分 D:適切にされていない) 施設は県が維持管理している。							B
地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い) 工事の必要性、納得度、重要性について、9割以上の方から評価されている。							A
改善措置の必要性(A:改善の必要なし B:小規模な改善が必要 C:大規模な改善が必要) 当事業としての改善の必要性はない。							A
事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している -:特になし) 特になし。							-
部意見	アンケートの結果から地域の評価は高く、事業効果は高い。			政 評 意	策 課 見	施工区間における冬期交通の安全確保が図られ、事業の目的を達成している。	
今後の取組及び同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直し等 地域住民及び道路利用者の意見・要望等を計画段階の早期に確認し、利便性・安全性の向上が一層図られるよう引き続き雪寒対策に努める。 小規模な雪崩が発生した場合は、除雪を早期に行い、利便性や安全性の向上に努めていく。							

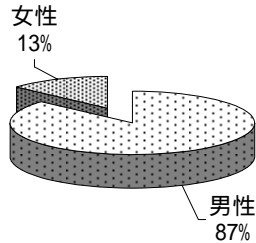
アンケートの方法及び対象

・栄村の住民80人に対し、アンケートを実施した。

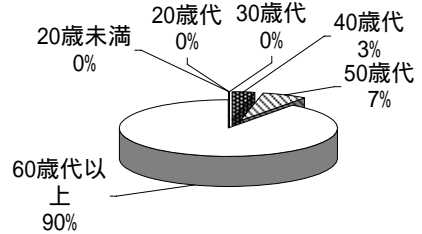
配布数	80
回収数	30
回収率	38 % (男性 87% 女性 13%)

アンケート結果

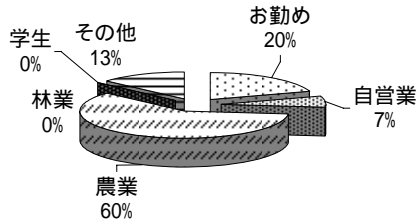
問1 性別



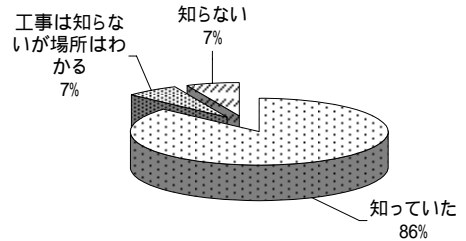
問2 年齢



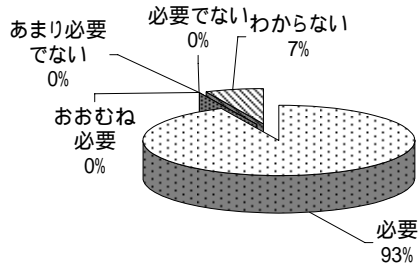
問3 職業別



問4 事業の認知度について



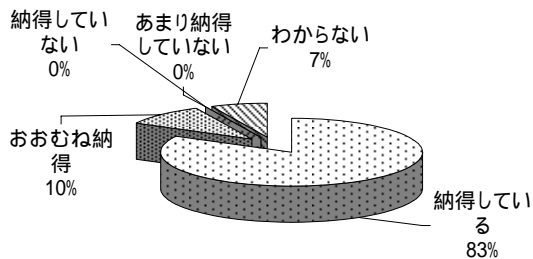
問5-1 事業の必要性について



問5-2 主な理由

- ・ 冬期間でも安心して通行できる。
- ・ 過去の雪崩発生状況を知っているから。
- ・ 雪崩予防のため必要。

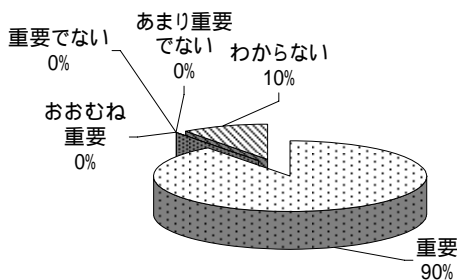
問6-1 事業への税金使用について



問6-2 主な理由

- ・ 安心して通行できる。
- ・ 公共事業の他には対策工事できない。
- ・ 山間地ほど税金を投入してほしい。

問7-1 地域社会にとっての重要性について

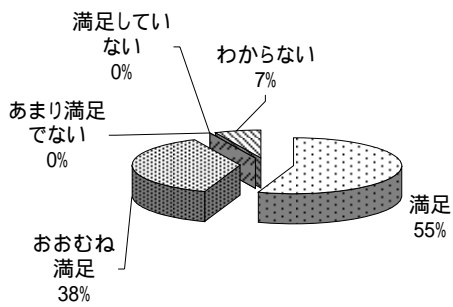


問7-2 主な理由

- ・ 通行者の安全確保のため。
- ・ 生活にとって大事な道路である。
- ・ 危険箇所は除去する必要がある。

アンケート結果

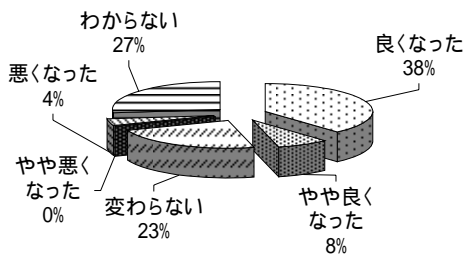
問 8 - 1 事業の完成結果について



問 8 - 2 主な理由

- ・ 安心して通行できる。
- ・ 雪崩が道路に流出することがある。
- ・ 雪崩が発生しても小規模になる。

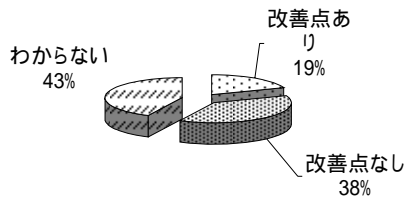
問 9 - 1 自然環境の変化について



問 9 - 2 主な理由

- ・ 稀少動植物はいないから。
- ・ 工事により環境が変わることは、しかたがないこと。
- ・ 山肌が目立つ構造物が出現した。

問 10 - 1 工事の改善について



問 10 - 2 主な理由

- ・ 小規模雪崩が道路に流出することがある。

問 11 その他ご意見・ご要望

- ・ 豪雪地における雪対策事業の実施を今後も宜しくお願いします。

施工前写真



施工後(現況)写真

